

## 5) 小括

ここまで「業務特性・職場の電子化・個人のスキル」「伝えやすさと伝わりやすさ」「上司」「心理面」といった分野が、それぞれ「満足度」「モチベーション」「仕事の成果」「仕事の生産性」といったテレワークの効果とどのように関係しているのかをみてきた。こうした各分野とテレワークの成果を各々に分析することに加えて、これらの分野を組み合わせ、どの分野がどの程度テレワークの効果に影響を与えるのかを、重回帰分析という手法を活用してみていく。重回帰分析は、複数の要因が、結果にどのように影響するのかを分析する統計的手法である。

まず、仕事のやりがいにつながる「満足度とモチベーション」に影響を与える分野を検証する<sup>1</sup>。結果は、表 4-5-1 のとおりである。 $\beta$  は、標準化偏回帰係数と言われるもので、各要因が与える影響を相対的に比較できる。 $p$  値は分析値の算出が偶然か否かを統計的に推定するもので数値が低いほど、偶然に算出された可能性が低いことを表す。\*マークのついた項目については、統計的に有意な結果であることを示している。

表 4-5-1 の結果を模式化したものが、図 4-5-1 になる。満足度とモチベーションに最も大きな影響を与えているのは、「業務外コミュニケーション」で、次いで「柔軟な働き方」「上司・同僚への負い目」となる。つまり満足度とモチベーションを向上させようとした場合、まずに業務外コミュニケーションのあり方を検討するとよいということになる。

---

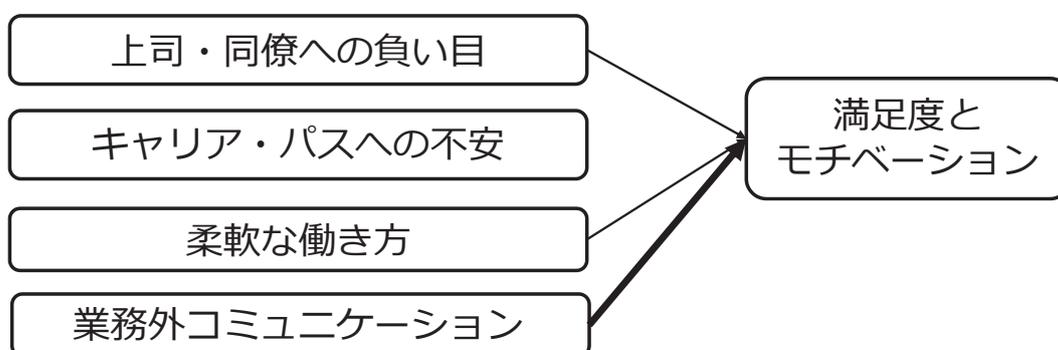
<sup>1</sup> Cronbach の  $\alpha$  係数によって各分野の尺度の信頼性を求めたところ、次のようになった。満足度・モチベーション  $\alpha = 0.830$ 、上司・同僚への負い目  $\alpha = 0.804$ 、キャリア・パスへの不安  $\alpha = 0.811$ 、柔軟な働き方  $\alpha = 0.688$ 、業務外コミュニケーション  $\alpha = 0.685$

表4-5-1 満足度とモチベーションに与える影響が大きい分野

	満足度とモチベーション	
	$\beta$	$t$
上司・同僚への負い目	0.17	4.21 ***
キャリア・パスへの不安	-0.05	-1.23
柔軟な働き方	0.18	6.37 ***
業務外コミュニケーション	0.30	10.27 ***
$R^2$	0.162	
調整済み $R^2$	0.159	

\* $p < 0.05$ , \*\* $p < 0.01$ , \*\*\* $p < 0.001$

図4-5-1 満足度とモチベーションに与える影響が大きい分野（重回帰分析の結果の模式化）



次に、仕事の成果と生産性に影響を与える分野を検証する<sup>2</sup>。結果は、表 4-5-2 のとおりであり、模式化したものが図 4-5-2 である。

最も大きな影響を与えているのは、「自分の伝えやすさ」、次いで「個人のスキル」「業務の自己完結性」の順になる。

このうち「業務の自己完結性」については、会社の事業内容や各部署の職務内容と大きく関わってくるため、短期的な解決は難しいと考えられる。一方で、テレワークで仕事の成果や生産性を上げる上で、個人のスキルが与える影響が大きいのであれば、会社の研修等は

<sup>2</sup> Cronbach の  $\alpha$  係数によって各分野の尺度の信頼性を求めたところ、次のようになった。仕事の成果・生産性  $\alpha = 0.883$ 、仕事の定型度  $\alpha = 0.630$ （「私の仕事は、アイデアの着想や発案が求められる」の回答を逆転させて処理）、業務の自己完結性  $\alpha = 0.809$ 、職場の電子化  $\alpha = 0.691$ 、個人のスキル  $\alpha = 0.656$ 、自分の伝えやすさ  $\alpha = 0.811$ 、相手の意図の伝わりやすさ  $\alpha = 0.843$

有効性が期待できる。「自分の伝えやすさ」については、たとえば「オンラインにおける伝え方」というテーマの研修を用意するなどが考えられよう。

表4-5-2 仕事の成果と生産性に与える影響が大きい分野

	満足度とモチベーション	
	$\beta$	$t$
仕事の定型度	0.03	1.04
業務の自己完結性	0.07	2.39 **
職場の電子化	0.05	1.68
自分の伝えやすさ	0.26	6.02 ***
相手の意図の伝わりやすさ	0.07	1.58
個人のスキル	0.16	5.29 ***
$R^2$	0.155	
調整済み $R^2$	0.150	

\* $p < 0.05$ , \*\* $p < 0.01$ , \*\*\* $p < 0.001$

図4-5-2 仕事の成果と生産性に与える影響が大きい分野（重回帰分析の結果の模式化）

